

ジュゴン骨に関する出土資料の集成（暫定）

Preliminary Survey of Excavated Dugong Bones

盛本 勲

MORIMOTO Isao

ABSTRACT: Together with the Ryukyu wild boar and sea turtle, the dugong has long been utilized in the Ryukyu archipelago as a food resource and also as a raw material for various bone tools. Therefore, it is important to investigate the relation between Ryukyu people and the dugong.

The excavated specimens of dugong bone are compiled here in order to chart the chronology and distribution of its use. The data shows that dugong bones were found as food debris in sites spanning from the Early Jomon until the premodern periods, but the worked bones were made and used only from the Late Jomon to the *Gusuku* period.

1. はじめに

人魚伝説のモデルで知られるジュゴンは、1955（昭和30）年に琉球政府指定の天然記念物となり、1972（昭和47）年の沖縄県の本土復帰に伴って、国指定天然記念物に指定変えされた貴重な哺乳動物である。

だが、近年の乱獲等により、琉球列島近海においては現在ではごく稀に定住あるいは漂流、迷行例が報じられるのみで、その棲息域はさらに南海へ下がるとともに、絶滅の危機に瀕している国際保護動物でもある。

ジュゴンは、島嶼形矮小亜種のリュウキュウイノシシやウミガメ類などとともに、琉球列島の縄文時代以降の動物食の重要なウエイトを占めていたらしく、多くの貝塚や遺跡から遺存骨が出土している¹⁾。出土資料等からして、食料として重要であったばかりでなく、多種多様な骨製品の素材としても使用され、無駄なく有効に利用されたことが伺える。とりわけ、太く湾曲の弱い肋骨は（写真1）、その形状と海綿質が堅固であるという特性から、多用されており、九州島や本州島などにおける鹿角と同レベルほどの利用価値を有していたものと考える。

また、琉球王国時代には、ジュゴンの肉を国王へ献上していたことが『中山伝信録』²⁾などの文献史料から伺える。このため、八重山諸島の新城島では、ジュゴンの肉が御用物として賦課せられていたとともに^{3)~5)}、琉球列島各地で安産の妙薬として、妊婦に好んで食されていたことが伝えられている。

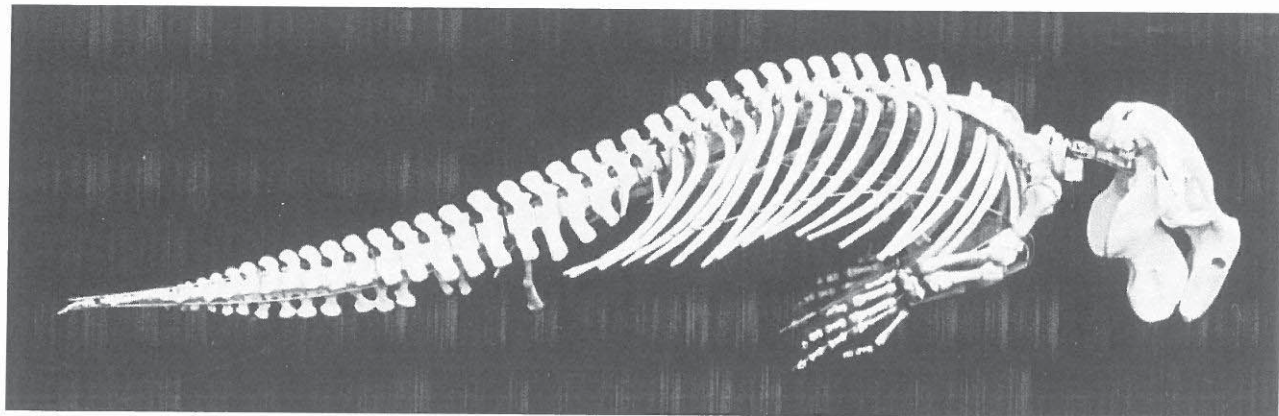


写真1 ジュゴンの骨格標本（琉球大学総合資料館風樹館蔵、川島由次氏提供）

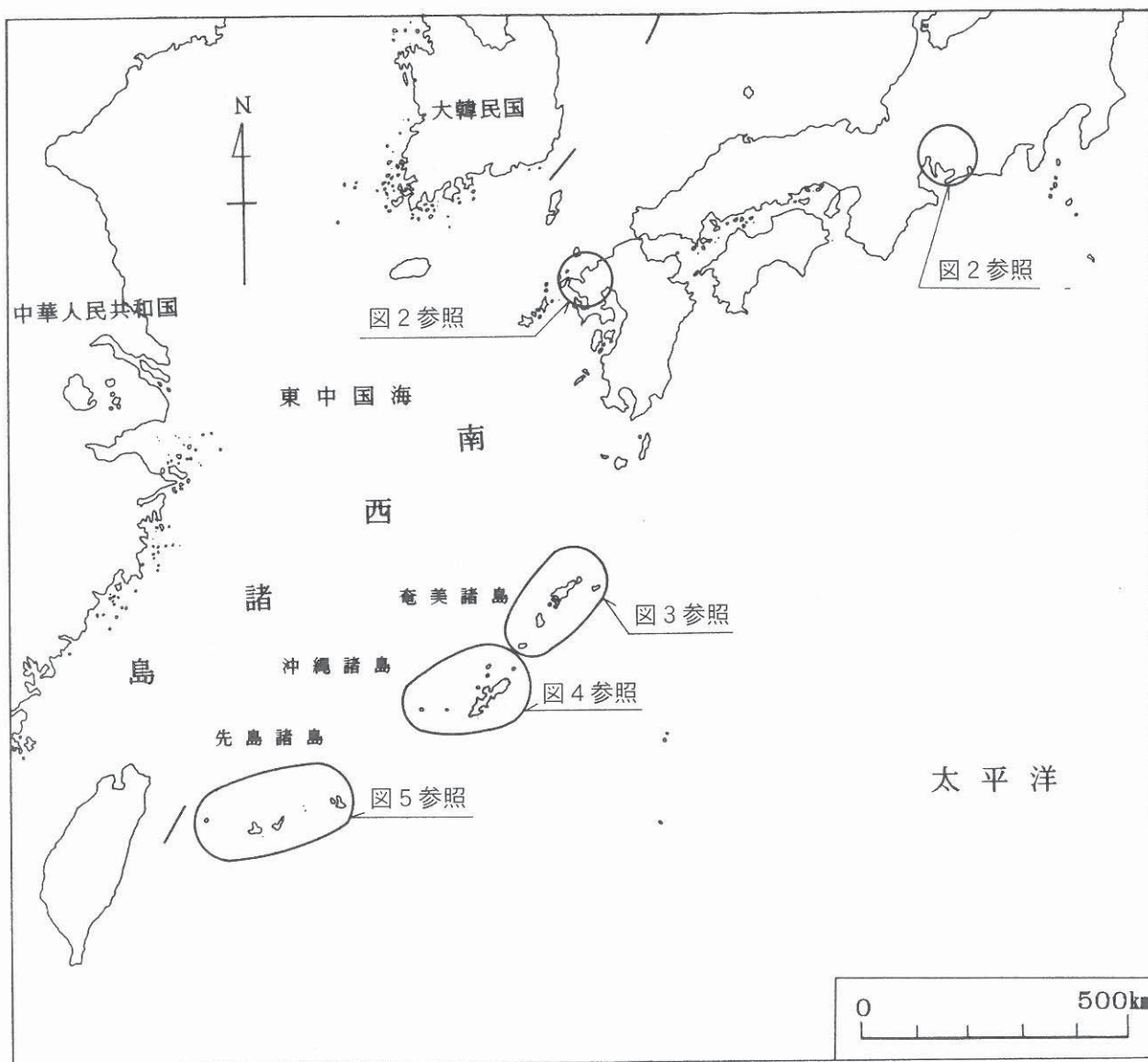


図1 ジュゴン骨等出土分布図（全体図）

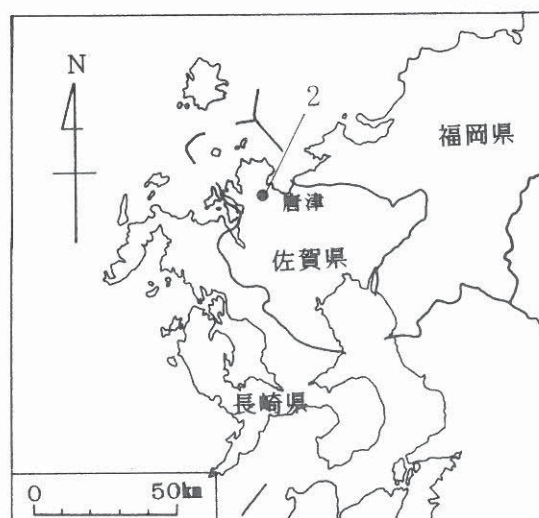
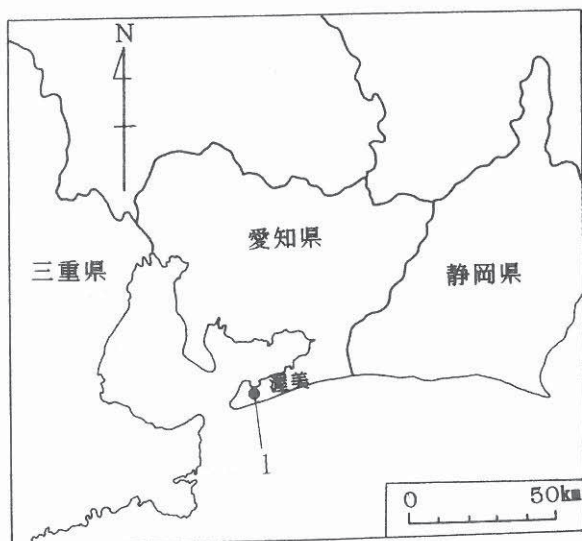


図2 ジュゴン骨等出土分布図・1（九州島・本州島）



図3 ジュゴン骨等出土分布図・2 (奄美諸島)

このように、ジュゴンは動物性淡白源として琉球列島の縄文時代から近年に至るまで、重要であつばかりでなく、縄文～グスク時代において骨製品の素材としても重用された利用価値の高い動物であつた。

よつて、ジュゴンと琉球列島の人びとの関わりを明らかにすることは重要なことである。

本研究は、動物考古学研究の基礎となる遺存骨と製品の集成、さらには出土時期および空間的出土状況の把握を第一の目的に、文献資料や古老等からの聞き取り調査をもとに、その捕獲方法などを明らかにすることを第二の目的に、琉球列島の先史時代以降の各時代におけるジュゴンのウエイトを明らかにすることが第三の目的であるが、紙幅等の都合上、小稿では第一の目的である遺存骨とその利用骨製品を集成し、その時期および時間的出土状況の把握を行い、第二および第三の目的については別稿にて論じたい。

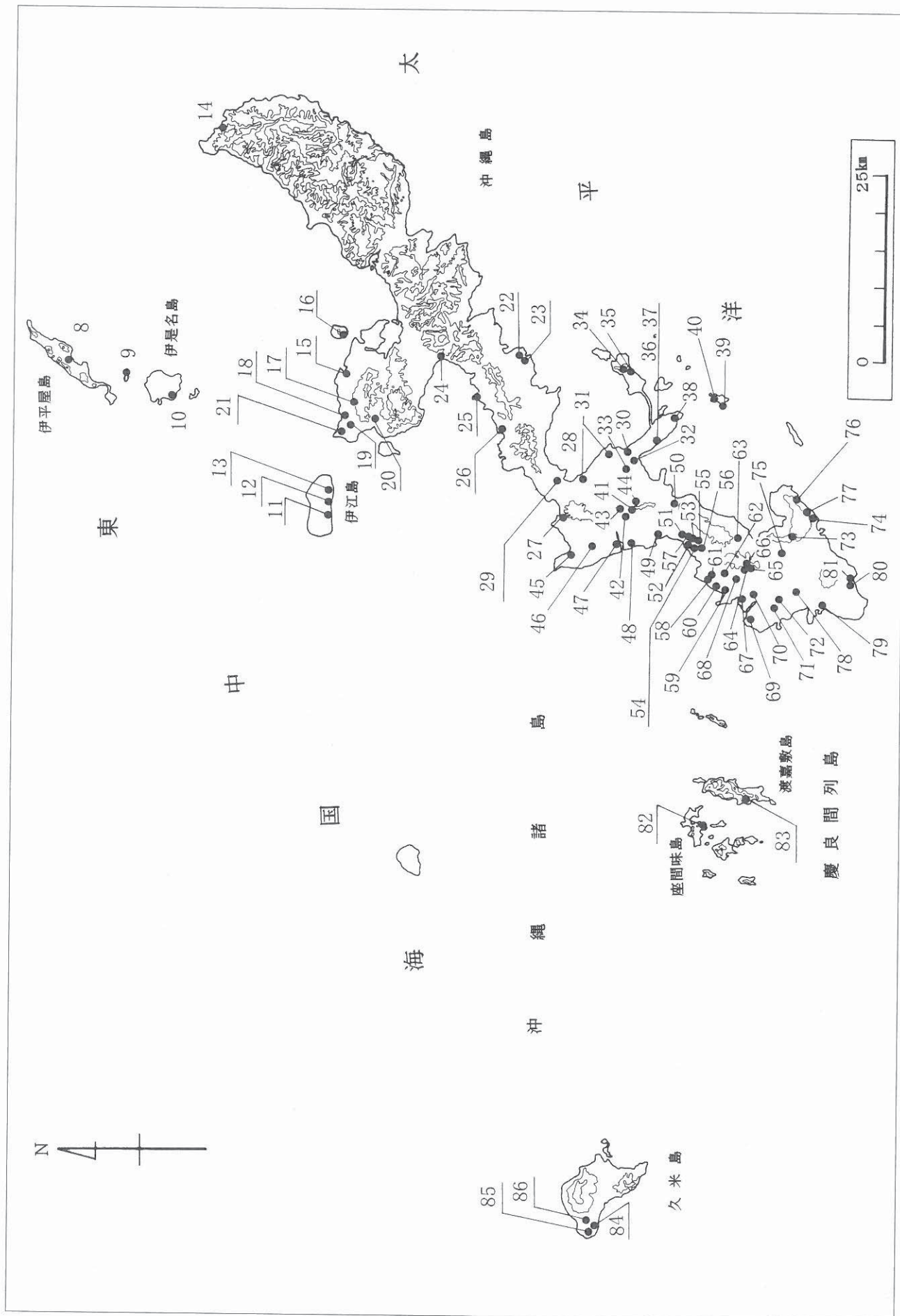


図4 ジュゴン骨等出土分布図・3 (沖縄諸島)

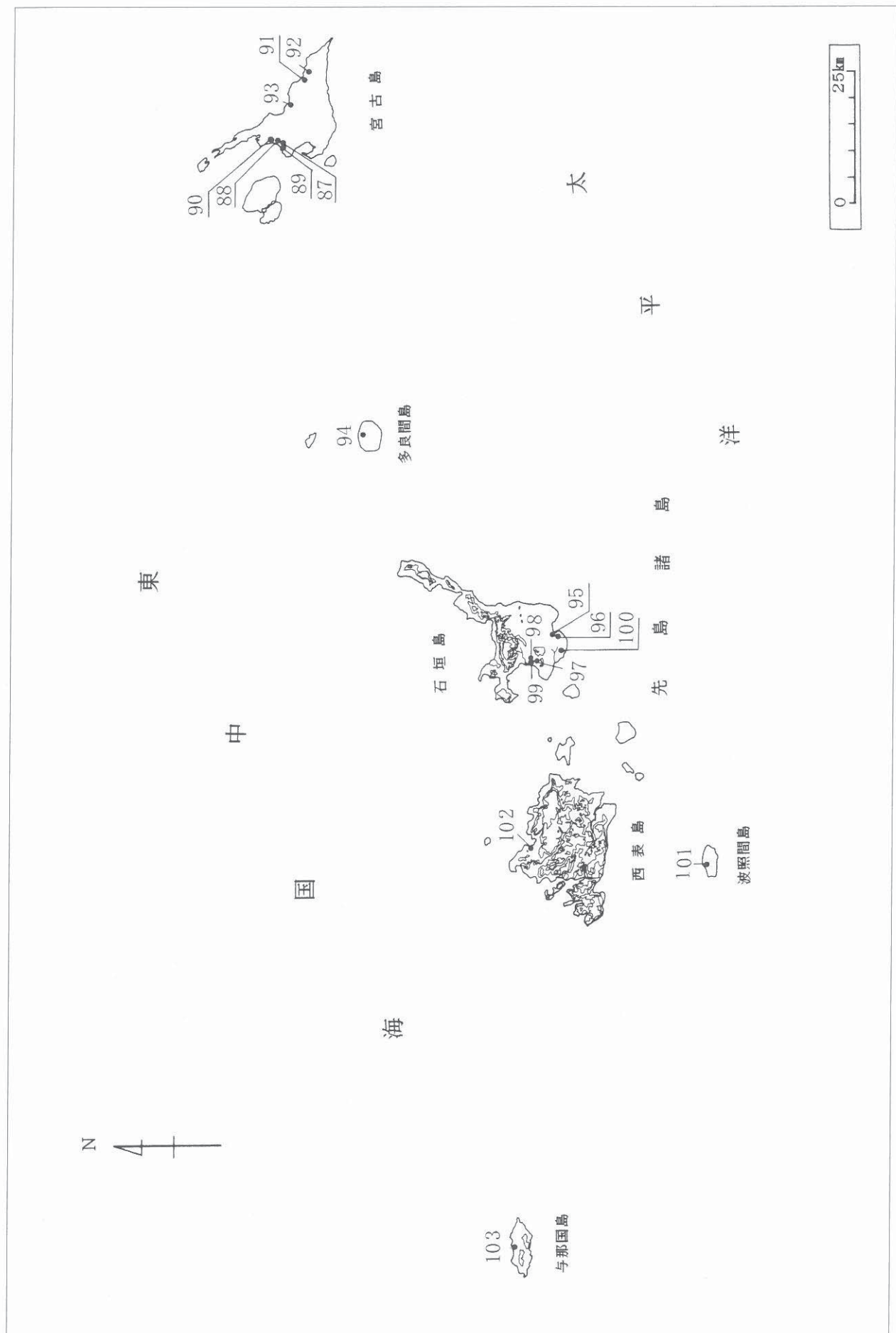


図5 ジュゴン骨等出土分布図・4 (宮古・八重山諸島)

2. ジュゴンの生態・分布・特徴等

ジュゴン(*Dugong dugon* D.L.S.Muller,1976)は、海牛目(Sirenia)ジュゴン科(Dugongidae)に属する草食性の哺乳動物である。漢字では儒艮を充て、奄美・沖縄地域ではザン、ザンヌイヨ、ザンヌイオ、アカンガイユ⁶⁾、宮古諸島ではヨナタマ、ヨナイタマ、新城島ではザヌ、西表島ではザノ、琉球王府公用語ではケーバと称されていたようである。

主な分布は、インド洋から太平洋の熱帯から亜熱帯海域で、西方は紅海のアカバ湾で、東方では奄美大島が北限にあたるものの、日本列島近海では黒潮に乗って、愛知県下あたりまでの漂流や迷行例がある。

江崎(1935)によれば、「昔は屋久島でも採れ(三國名勝図会、巻五)、又奄美大島あたりでも採れた(鹿児島県植物調査、第一輯、p170.)日本での例外的な記録としては、宮城縣油津付近でも漁れたことがあるらしい。」との報告があることから、先史時代においては奄美諸島(恵原1973)からトカラ列島、さらには薩南諸島あたりでも採捕できたとともに、黒潮暖流に乗り、九州島や四国島、本州島にも漂流や迷行例がある可能性が高い。

このことは、愛知県渥美郡渥美町保美貝塚(大山1944・酒詰1961)や佐賀県唐津市菜畑遺跡(渡辺1982)などの出土例からも首肯できる。

その生態は、珊瑚礁の発達した沿岸性の強い浅海に棲息し、アジモやアマモ等の海棲の頸花植物やマングローブ類などの多肉質の葉を主食とする。索餌は、夕方から早朝にかけて行うようである。

概して、外的に対する防御手段が無いよう、遊泳速度も遅いことから、先史時代人の捕獲技術でも比較的容易に捕獲できたであろう、ことは想像に難くない。

体形は紡錘形をなし、一見クジラに似るが、前肢は鰭となり、背鰭はなく、尾鰭はクジラ同様、半月状を呈す。口部に特徴を有し、上唇が厚く、上方に延びて円盤状をなし、太い感覚毛(胴毛)が密生する。また、上唇の上方には一対の外鼻孔が開口しているが、耳朶はない。

体色は青みがかった灰色を呈し、全身に細かい毛がまばらに生えている。一産一子を産み、妊娠期間12ヶ月で、雌は子を抱き、水上に頭を出して哺乳する。体長は成獣で3mを測り、体重は300~400kg程に達する。寿命は、50歳位と比較的長寿の動物である(宮城1980、西脇1984)。

3. 出土資料の集成

管見の限り、これまで日本列島内でジュゴン骨利用の製品あるいは製作途上品、さらには食料残渣などとしての動物遺存体を含めて、ジュゴン骨を出土した遺跡は本州島1、九州島1、奄美諸島地域5、沖縄諸島地域79、宮古諸島地域8、八重山諸島地域9の計103遺跡以上が知られている。これらのジュゴン骨の出土資料について、次の要領で集成作業を行った。

なお、本集成作業は、環境省が発された2002(平成14)年度ジュゴンと藻場の広域的調査の研究成果(環境省2003)に報告したものをベースとしている。

①これまでに刊行された発掘調査報告書等を中心にジュゴン骨の出土に関する文献資料を調査

②出土したジュゴン骨の部位について、解剖学的名称と骨製品の情報を整理

これらは暫定的な集成で、沖縄県下についてはほぼ網羅しているものの、鹿児島県下に属する奄美諸島地域については多少の遺漏があるものと思われる。これらについては、漸次追補していきたいと考える。

さらに、食料残渣としての集成からも窺えるように、個々の遺跡出土の動物遺体の報告を見ても、海獣骨などと曖昧な記述が見られ、正確な同定が行われていない例が少なくないとともに、利用製品

についても正確な種同定がなされてはいないものも少なくない。これらについては、実見を基本に、掲載写真や実測図などから筆者の同定により判断したものも若干含まれていることを記しておきたい。

表1からも判るように、部位別に見た場合、食料残渣としての出土骨及び製品としての利用部位で最も多いのが肋骨で、他部位については断片的にしか知られていない。とりわけ、四肢骨等については多くなく、勝連町平敷屋トウバル遺跡などで出土している状況である。しかし、頭蓋骨などが全く出土していないわけではないことから、北條輝幸が指摘するように「珍重の余り、骨の髄まで食用に

表1 ジュゴン骨および骨利用製品集成一覧(暫定)

() 内の数字は点数

番号	遺跡名	時期	出土骨(点数等)	製品(利用部位等)	文献
1	愛知県渥美町保美貝塚	縄文後～晩期	部位等詳細不明	—	大山1944, 酒詰1961
2	佐賀県唐津市菜畑遺跡	縄文晩末	肋骨頭r(1)	—	渡辺1982
3	鹿児島県笠利町あやまる第2貝塚	弥生前末～古墳	肋骨片:(10)(焼かれて化石状をなす)	—	池畑他1984
4	鹿児島県笠利町泉川遺跡	奈良～平安時代相当	L肋骨片(3箇所折れている)、頭蓋骨の一部(2)	—	立神編1986
5	鹿児島県伊仙町犬田布貝塚	縄文晩期	—	垂飾品(2)	吉永・宮田編1984
6	鹿児島県知名町神野貝塚	縄文後期	—	ヘラ状製品(1):肋骨利用、有孔装身具:肋骨利用、肋骨製品(瘦身具か呪具か):肋骨利用、骨鉾(1):肋骨利用、管状製品(1):肋骨利用、用途不明(1):肋骨利用	高宮他1985a・b, 87
7	鹿児島県与論町上城遺跡	縄文晩期末	—	かんざし(1), 垂飾品(1)	堂込編1990
8	伊平屋村久里原貝塚	縄文前末, 後～晩前	頸椎(椎弓:1, 椎体:1), 胸椎(椎弓窩:1, 棘突起:1), 肋骨(13), 上顎骨片(L:1), 切歯片(1), 頬骨突起片(1), 下顎骨片(体:2, 枝:2), 肩甲骨(頸部R:1, 棘上窩:2), 上腕骨(L:P:1), 橈骨(P:1, S:3, D:1), 尺骨(S:4), 指趾骨(4)	—	岸本他1981
9	伊是名村具志川島遺跡群岩立地区	縄文後・晩期	—	環状骨製品(海獣骨)(2)	安里他1979a
10	伊是名村伊是名貝塚	縄文後期	—	骨製品(1):肋骨?利用, 骨鉾(1):肋骨利用	安里1979, 沖縄県伊是名貝塚学術調査団2002
11	伊江村ナガラ原西貝塚	弥生前末～中	尾椎, 第7:9肋骨(L), 肋骨(R) ※点数不明	剣状骨製品(1)	安里他1979b
12	伊江村具志原貝塚	縄文前末, 後, 晩, 弥生	肋骨片(2)	—	友寄・高宮1968, 安里他1985b, 岸本他1997
13	伊江村阿良貝塚	弥生中～後	胸骨片(1)?	骨針(2)	安里他1983
14	国頭村宇佐浜B貝塚	弥生中～後	肋骨片(1)	—	岸本他1989
15	今帰仁村渡喜仁浜原貝塚	縄文後～晩前, 後前～後	肋骨片(完:1, 破:10), 椎骨(完:1, 破:3), 中手骨(3), 肩甲骨片(8), 不明(5)	—	新田他1977
16	今帰仁村古宇利原遺跡	縄文後期	ジュゴン(歯?), 報文では, 単に海獣として報告.	—	上原他1983a
17	今帰仁村今帰仁城跡	グスク	部位・数量不明	—	金武・宮里編1983
18	本部町具志堅貝塚	縄文後, 弥生前～後	肋骨片(30), 肩甲骨(L:1)	骨製品(1)	岸本他1986
19	本部町知場塚原遺跡	縄文晩	頭蓋骨(2), 肋骨近位部(1), 肋骨片(7)	—	岸本他1988
20	本部町屋比久原遺跡	縄文後～晩期	—	蝶形骨製品(2):肋骨利用	盛本発掘
21	本部町備瀬貝塚	弥生前～中	後頭顆(1), 肩甲骨(R:1), 肋骨片(1)	—	島他1986

22	宜野座村松田遺跡	近世	肩甲骨(1)	—	盛本編1986
23	宜野座村前原遺跡	縄文後期	R頬骨(1), L上腕骨(1), 肋骨片(12), R上腕骨片(1), R橈骨(1), 棘突起(1), 部位不明(22)	—	知名編1999
24	名護市名護貝塚	弥生後～グスク	肋骨片(1)	—	松川他1985
25	名護市部瀬名貝塚	弥生後～古墳	R第16肋骨片(1), R第18肋骨片(1), 頭頂骨片(1)	—	岸本利枝他1996
26	恩納村伊武部貝塚	縄文後・晩期	—	肋骨製未製品	上原他1983b
27	恩納村久良波貝塚	弥生後～グスク	1992: 肩甲骨(R: 1, 不: 1), 肋骨片(4), 不明(3)	—	上原他1992, 長嶺・大城他1994
28	石川市古我知原貝塚	縄文後・晩	頭蓋骨片(11), 肋骨片(20), 不明(9)→本文編 肩甲骨(R), 上腕骨(R), 尺骨か橈骨→図版編	かんざし(3), 棒状製品(5), 骨輪(5)(5), 骨輪(5)	島袋他1987
29	石川市伊波貝塚	縄文後	肋骨片 ※点数不明	—	大山1920
30	具志川市アカジャンガー貝塚	弥生中～後	肋骨片(40)	—	金武他1980a
31	具志川市宇堅貝塚	弥生中	不明(2)	—	金武他1980a
32	具志川市地荒原遺跡	縄文後～晩	頭蓋片(R: 2, L: 4, 不: 14), 棘突起(12), 肋骨片(90), 肩甲骨(L: 1, 不: 1), 上腕骨(L: 3), 橈骨(L: 1)	骨錐(8)	大城他1986
33	具志川市地荒原貝塚	縄文後～晩	頭骨片(2), 頬骨側頭突起(1), 頸椎(2), 腰椎(8), 棘突起(1), 肋骨片(70), 不明(6), 破(12)	骨錐(15), ヘラ状製品(1), 骨製品(3), 海獣(2), 骨製管状製品(1)	多和田他1962, 大城他1986, 岸本編1979
34	与那城町シヌグ堂遺跡	縄文後～晩	肋骨片(26), 椎体(3), 肢骨片(9), 不明(34)	骨錐(12), ヘラ状製品(1), 未製品(2)	金武他1985
35	与那城町高嶺遺跡	縄文後～晩	頭蓋骨片(R: 1), 下顎骨片(R: 1), 肋骨(p: 4, 破: 50), 胸椎片(1), 椎体片(1), 棘突起(1), 臼歯(1), 破片(13)	サメ歯模造品(1), かんざし(1), 骨錐(6), ヘラ状製品(2), 未製品(2)	金城他1989
36	勝連町勝連城跡南貝塚	奈良～室町	頭骨(1), 側頭骨(1), 後頭骨(1), 棘突起(7), 肋骨(3), 上顎骨(1), 下顎骨(1), 歯(2), 椎骨(2), 椎体(4), 破片	麻雀牌形製品(1)	安里他1984a
37	勝連町勝連城跡二の丸跡	グスク	肩甲骨(1), 頬骨側頭突起(1)	骨鏃(12): 肋骨利用, 刃物痕のある破片(6?): 殆どが肋骨?利用	安里他1984a
38	勝連町平敷屋トウバル遺跡	縄文後～晩, 弥生中～後	頭蓋骨: 完存(R: 1, L: 1), 破片(R: 37, L: 41, 不明: 1), 肋骨(R: 128, L: 198, 不明: 742), 肩甲骨: 完存(R: 1), 肩甲骨片(R: 9, L: 9), 上顎骨(R: 1, L: 3), 下顎骨(R: 7, L: 9), 椎体(R: 3, L: 7, 不明: 154), 上腕骨片(R: 2, L: 1), 橈骨: 完存(L: 1), 橈骨幼(2), 尺骨: 完存(R: 1), 尺骨片(R: 3, L: 2), 幼(R: 1, L: 1)	骨錐(1), 有孔製品(未製品)(2), 用途不明キズ有(5)	島袋他1996
39	勝連町津堅島津堅第二貝塚	弥生中～後	部位及び数量不明	—	上原他1993
40	勝連町津堅島キガ浜貝塚	縄文後～晩期	—	骨錐(海獣骨)(1), 海獣骨製品(1), 蝶形骨製品: 肋骨利用(4), 下顎骨利用(1)	金武他1978
41	沖縄市仲宗根貝塚	縄文後～晩	下顎骨(1)	—	嵩元他1980
42	沖縄市室川貝塚	縄文後～晩	部位及び数量不明	獸形骨製品(4): 肋骨利用, 装身具(1), 骨製品(14), かんざし状製品を含む肋骨製品(8)	高宮他1984, "79a,"79b, "80,"80,"82,"81, 比嘉他1997
43	沖縄市知花遺跡	縄文後～晩期	下顎骨(関節突起)(R: 1), 肋骨片(6), 上腕骨: s(L: 2), 長骨片(1)	骨錐(1)	安里他1986
44	沖縄市越來グスク	グスク	肋骨片(2)	—	宮城他1988

45	読谷村吹出原遺跡	縄文後～晩、グスク	肋骨片(2)	蝶形骨製品(2):下顎骨利用	仲宗根他1990 大城他1994
46	嘉手納町屋良グスク	グスク	肋骨片(1)	—	
47	嘉手納町嘉手納貝塚	縄文後・晩期	肋骨片(10)	蝶形骨製品(1):下顎骨利用	新田・嵩元1960, 島袋編1995 岸本他1984
48	嘉手納町野国貝塚群 B地点	縄文前期	肩甲骨(R:1)、指骨片(点数不明)	—	中村編1989
49	北谷町伊礼原B遺跡	縄文前～後	—	骨製品(海獣)	松村1919
50	北中城村荻堂貝塚	縄文後	肋骨片(1)	—	島袋他1992
51	宜野湾市安仁屋トゥ ンヤマ遺跡	グスク～近世	肋骨片(1)	—	呉屋編1998a,
52	宜野湾市伊佐前原第 一遺跡	グスク	上腕骨遠位端片1, ジュゴン?不明破片1	—	當銘編2001
53	宜野湾市喜友名貝 塚・喜友名グスク	縄文後・晩期, グ スク	肋骨(4), 棘突起(1), 不明片(1)	ヘラ状骨製品(1):肋骨利用	比嘉編1999
54	宜野湾市真志喜安座 間原第一遺跡	縄文後～晩期	—	蝶形骨製品(1):下顎骨利 用, 肋骨製垂飾品(1)	呉屋他1989, 金子2000
55	宜野湾市真志喜富盛 原第二遺跡	グスク～近世	肋骨(1)	—	呉屋編1998b
56	宜野湾市大山貝塚	縄文後	—	かんざし(2):肋骨?利用	賀川・多和田 1959
57	宜野湾市喜友名山川 原第5遺跡	縄文後・晩期	—	蝶形骨製品(1):肋骨利用	呉屋編1984
58	浦添市城間遺跡	縄文後・晩期, 弥生 後～古墳?	—	肋骨製品(1)	松川他1992
59	浦添市城間古墓群	縄文前・晩期, 古 墳?, グスク, 近世	—	蝶形骨器(2)	松川編1990
60	浦添市嘉門貝塚A地 区	弥生後, グスク	肋骨片(1), 上顎骨(幼:L:1)	—	松川編1991
61	浦添市嘉門貝塚B地区	縄文中, 後, 弥生前・ 中	下顎骨(R:1, L:1), 肋骨片(4), 不明(2)	—	松川編1993
62	浦添市城浦添貝塚	縄文後	上腕骨(1)	—	北條1976・”91
63	西原町我謝遺跡	縄文後・グスク	肋骨(1):個人住宅, 肋骨片(5):分譲住宅地造 成	—	大城編 1983a・b
64	那覇市首里城跡	グスク	歓会門・久慶門内側地区:頭蓋骨(1), 椎体(1), 椎体突起(1), 肋骨(2), 中手・中足骨(1), 右掖門 地区:頭蓋骨(2), 上顎骨・切歯(1), 椎体(1), 肩 甲骨(1)	未製品(1):肋骨利用・管理 用道路地区	当真・上原編 1988・盛本他 2001 西銘編 2001, 片桐他2003
65	那覇市天界寺跡	グスク	肋骨片(1)(報告Ⅰ), 前頭骨・頬骨突起(L:1)・ 歯(1), 胸椎(1), 環椎(1), 棘突起(1), 肋骨(1)(報 告Ⅱ)	—	島袋編2001・ 2002
66	那覇市首里崎山古墓群	近世	肋骨片(1)	—	島他2001
67	那覇市銘苅原遺跡	グスク	下顎骨(1), 肋骨片(4)	—	金武他1997
68	那覇市崎樋川貝塚	縄文後	—	蝶形骨製品(1):下顎骨利用	島田1932
69	那覇市ガジャンピラ 丘陵遺跡	縄文晩, 古墳?, グ スク	部位および点数不明	—	大田他1983
70	那覇市湧田古窯跡	グスク～近世	肋骨片(1):行政棟地区, 肋骨片(1):地下駐車場地 区	肋骨利用製品:議会棟地区	島袋編1993・” 95,” 99
71	豊見城市宜保アガリ ヌ御嶽	グスク～近世	—	肋骨利用製品(1)	与那嶺編2003

72	豊見城市渡嘉敷後原遺跡群	グスク～近世	部位及び数量不明	—	与那嶺編1997
73	玉城村糸数城跡	グスク	—	ヘラ状製品(1)	西平他1991
74	玉城村百名第二貝塚	縄文後	肋骨片 ※点数不明	—	安里他1981
75	大里村稲福遺跡	グスク	部位及び数量不明	骨鏃(1)	当真編1983
76	知念村下上原貝塚	縄文後・晩	肋骨片(1)	—	大城他1994
77	知念村熱田原貝塚	縄文後	臼歯(1) 他に部位等の同定可能な骨はない	—	大城他2002
78	糸満市阿波根古島遺跡	グスク	肋骨片(1)	—	金城他1990
79	糸満市真栄里貝塚	縄文後・晩、古墳?	部位および点数不明	—	湖城他1996
80	糸満市字米須貝塚	縄文前、弥生前～後?	肋骨片 ※点数不明	—	湖城他1985
81	糸満市大度貝塚	縄文後・晩、弥生中?	※部位不明(1)(第2次調査試掘穴2:Ⅲ層出土)	ジュゴン骨加工品(1):第2次調査試掘穴3出土	湖城・大城編2003
82	座間味村古座間味貝塚	縄文後～晩、弥生前?	I区:部位不明(1), II区:部位不明(72), III区:部位不明(9)	未製品(肋骨利用):III区	岸本他1982
83	渡嘉敷村阿波連浦貝塚	縄文晩～弥生前?	肋骨片(5)	—	高宮他1999
84	久米島町清水貝塚	弥生後～古墳?	上顎枝(1), 下顎枝(1), 遊離歯(1), 頬骨(1), 頬骨突起(1), 第一頸椎(1), 椎体(2), 肋骨(R:2, L:6, 不明:9), 上腕骨(L:1)(1), 第一頸椎(1), 椎体(2), 肋骨(R:2, L:6, 不明:)	—	盛本編1989
85	久米島町大原貝塚群A地点	縄文後・晩期	部位不明(13)	ポイント状製品	当真他1980
86	久米島町ヤッチノガマ・カンジン原古墓群	近世	肋骨片(1):12区画I～II	—	西銘編2001
87	平良市尻並遺跡	グスク～近世	—	切裁痕のある破片(1)	羽方編2003
88	平良市保里遺跡	グスク	部位及び数量不明	骨鏃(1), 他	砂辺編1999
89	平良市住屋遺跡	グスク	部位及び数量不明	骨鏃・骨錐・骨製かんざし・骨製ヘラ・用途不明製品	砂辺編1992
90	平良市尻川遺跡	グスク	—	骨鏃(2)	砂辺・宮城編2003
91	城辺町浦底遺跡	新石器時代後期	部位及び数量不明	骨錐(1)	S.Asato1990
92	城辺町アラフ遺跡	新石器時代後期	肋骨(L・R不明)	—	江上・馬淵編2003
93	城辺町長間底遺跡	新石器時代後期	肋骨片(2), 四肢骨片(1), 椎骨片(1), 不明(1)	—	安里他1984b
94	多良間村白嶺貝塚	グスク	—	ヘラ状製品(1):肋骨利用	大城他1990
95	石垣市カンドウ原遺跡	グスク	部位不明(少量)	尖頭状製品(3)	大城・金城・島袋編1984
96	石垣市フルスト原遺跡	グスク	部位数量不明	—	石堂・当真編1977
97	石垣市名蔵貝塚群	新石器時代後期	肋骨片(3)	—	島袋他1985
98	石垣市大田原遺跡	新石器時代前期	肋骨片(29), 椎骨(1)	—	金武他1980b
99	石垣市神田貝塚	新石器時代後期	犬歯(1), 肋骨片(3)	—	金武他1980b
100	石垣市山原貝塚	グスク	—	ヤス頭状製品(4)	後中筋・岸本編1983
101	竹富町下田原貝塚	新石器時代前期	椎体片(2), 肋骨片(16), 部位不明(4)	—	金武・金城編1986
102	竹富町船浦スラ所跡	近世	肋骨?(1)	—	金城編1991
103	与那国町トゥグル浜遺跡	新石器時代後期	上腕骨(1), 基節骨(1), 椎体(1)	—	安里編1985 a

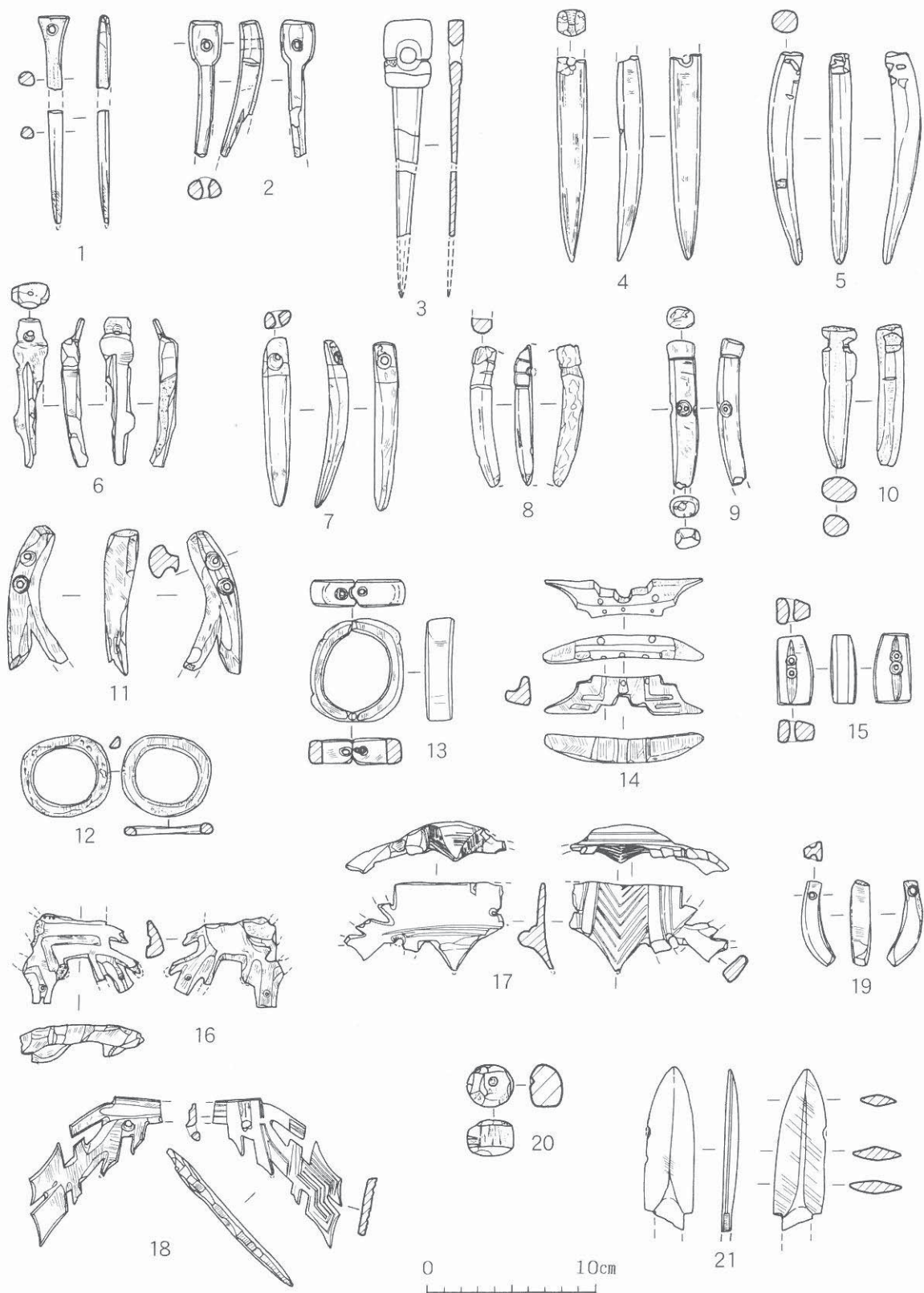


図6 主なジュゴン骨製品・1 1. (阿良貝塚), 2. かんざし (古我地原貝塚), 3. かんざし (大山貝塚), 4・5, 骨錐 (シスグ堂遺跡), 6・11・16. 室川貝塚 (獣形装身具), 7. 大原貝塚群 (有孔製品), 8. シスグ堂遺跡 (骨針), 9. 古我地原貝塚 (棒状製品), 10. (室川貝塚), 12. (具志川島遺跡群岩立地区), 13. 骨輪 (古我地原貝塚), 14. 蝶形骨器 (室川貝塚), 15. 札状製品 (古我地原貝塚), 17・18: 蝶形骨器 (吹出原遺跡), 19・20, 有孔製品 (平敷屋トウバル遺跡), 21. 剣状製品 (ナガラ原西貝塚)

されて縄文時代の遺跡には残されなかったと考えられる」(北條1991)という見解には賛同しがたい。

筆者は、拙稿でも指摘したが(盛本1996)、確かに北條が指摘するように、琉球列島の貝塚や遺跡出土の獣骨で最も多いのはリュウキュウイノシシであり、それに比すればジュゴン骨の量は少なく、かつまた碎片が多いのは事実である。しかし、本集成で明らかになったように、103遺跡と決して少ない遺跡より出土しているとともに、1.はじめにでも記したように、海面質が緻密質である骨の特性から、肋骨をはじめ、頬骨、指骨など、多くの部位が骨製品の素材として利用されているということも考慮すべきであろう。

なお、これらの出土状態は、遺物包含層中より食料残滓としての貝類や魚類、あるいはリュウキュウイノシシなどの他の獣類遺存体などと伴出しているのがほとんどであるが、近世古墓出土例の那覇市首里崎山古墓群では7号墓蔵骨器NO.1からの出土がある(島編2001)、動物供養という側面から興味を有する資料である。

4. 若干の考察

さて、これらの地理的分布を見ると、本州島の愛知県下、九州島の佐賀県下において各1遺跡ずつの報告例が知られているが、圧倒的主体を占めるのは棲息分布の北限に近い琉球列島である。

琉球列島を見た場合、鹿児島県下に属する奄美諸島地域では、笠利町あやまる第2貝塚を北限とし、

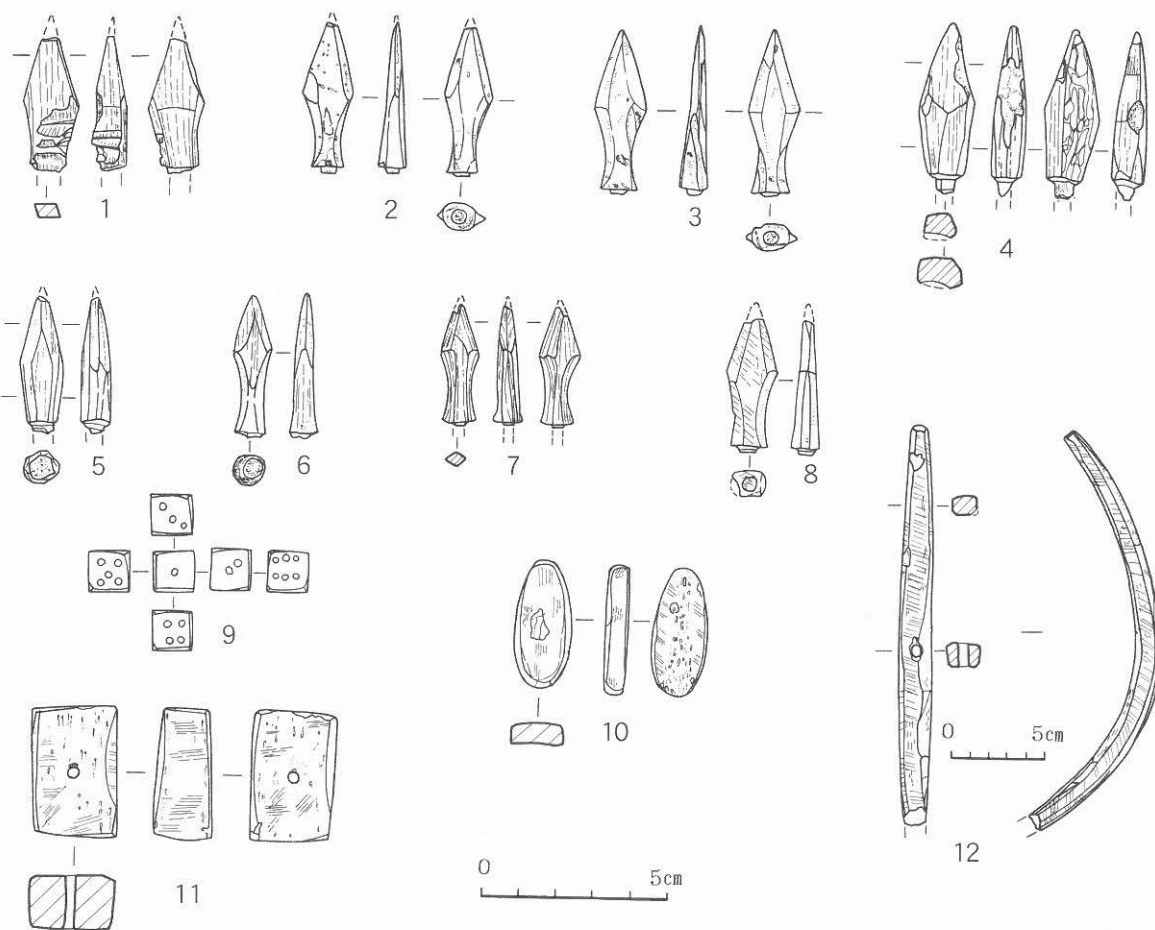


図7 主なジュゴン骨製品・2 1~8. 骨鏃(勝連城跡:南及び北貝塚・二の郭・三の郭), 9・10. 骨珠(勝連城跡:北貝塚、二の郭及び三の郭), 11. 麻雀牌形製品(勝連城跡:南貝塚), 12. 弓状製品(宜保アガリヌ御嶽遺跡)

南端の与論町上城遺跡の5遺跡のみで、圧倒的主体を占めているのは沖縄県下である。

このことは、沖縄近海がジュゴンの棲息分布の中心である亜熱帯～熱帯に位置若しくは近く、奄美諸島地域はその北限域にあたることから首肯できる。本州島の愛知県下、九州島の佐賀県下における出土例は、北上する黒潮に乗って迷行した例であろう。2で記したように、同様な例は近年において宮城県下まで知られる。

沖縄県下を見た場合、沖縄諸島地域が79遺跡、宮古諸島地域が8遺跡、八重山諸島地域が9遺跡と沖縄諸島地域が圧倒的多数を占めている。この資料からする限り、より棲息分布に近い宮古・八重山諸島地域に少ないことになっているが、その要因としては大きく下記の2点が考えられる。

1. 宮古・八重山諸島地域は、沖縄諸島地域に比して、発掘調査件数が少ないとともに、調査規模が狭小である。
2. 動物考古学の基礎資料となる動物遺存体に対する力点の弱さなどから生じる資料の未報告および正確な種同定がなされていない。

沖縄諸島地域を見た場合、最北端に位置する国頭村宇佐浜B貝塚から南西端の久米島町清水貝塚および大原貝塚群A地点、東端の与那城町宮城島シヌグ堂遺跡および高嶺遺跡と東の太平洋地域あるいは西の東中国海地域を問わず、ほぼ全域において分布していることが判る。

次に、時期的な出土状況についてであるが、各時代における各期ごとの詳細な量的変遷などは明らかにすることができなかったが、大略として、食料残滓としての最古例は沖縄諸島地域の前Ⅱ期（縄文前期併行）の嘉手納町野国貝塚群B地点例（岸本他1984）を初出とし、以後近世までの遺跡で連続と出土している（表2）。

しかし、肋骨や頬骨、あるいは指骨などを利用した骨製品の出現は若干後出し、沖縄諸島地域の前Ⅳ期（縄文後期併行）になると、貝製品やイノシシなどを含めた他種の利用製品などの出現と相俟って、肋骨を主体とした製品が登場するとともに、同期後半から後続する前Ⅴ期（縄文晩期併行）前半頃にはその種類やバリエーションのども拡大する傾向が見られる。とりわけ、当該期を代表するものとして、琉球列島にしか見られない蝶形や獣形骨製品（図5:16~18）の使用素材も肋骨や頬骨である（島袋1991・金子2000）。から

表2 ジュゴンの食料残滓および骨製品の時期的変遷

	縄 文 時 代						弥生～奈良時代	グスク時代	近世
	旧石器時代	草創期	早期	前期	中期	後期	晩期	併 行 期	
食料残滓									
骨製品									

次期の沖縄後期（弥生～平安前期併行）になると、多少の減少傾向を示すが、弥生時代併行期に伊江村ナガラ原西貝塚例などに見られるように（安里他1979a）、当該期の九州弥生時代においても入手困難であった銅剣を模したと思われる剣状製品などの質感や強靱性などを必要とする製品に使用されていたことが窺える。

なお、宮古・八重山地域の南琉球圏でも、最古に位置づけられている新石器時代前期に属する竹富町下田原貝塚期以降、近世に至る各時代にわたっての出土が見られる。

そして、グスク時代になると、沖縄諸島地域から宮古・八重山諸島地域の沖縄県下のほぼ全域で、

尖頭状製品、骨鏃、骨製鏃、ヤス頭状製品などと報告されている鉄鏃を模したと推される肋骨利用の有茎の製品が出土する（図6:1~8）。これは、入手が容易でない貴重な鉄素材をウシの脛骨などとともに、骨に材質置換した鏃写しであろう。

本集成作業を行うにあたって手を煩わせた大城勝江、上原園子、城間千鶴子、比嘉優子、浜元春江、外間瞳、藤田奈穂美に銘記して深謝の意を表する。

なお、本調査研究は(財)高梨学術奨励基金より、1997（平成9）年度に筆者に与えられた調査・研究助成「ジュゴン骨の基礎的研究」の成果の一部を含んでいることを謝意を込めて銘記する。

（もりもと いさお：調査課長）

<註>

1) 管見の限り、琉球列島に南接する台湾でも東南海上に位置する火烧島（現名：緑島）の油子湖遺跡で幼獣の犬歯を利用した垂飾状製品の出土例が知られている（鹿野1946）。

2) 徐葆光『中山傳信録』下（沖縄県立図書館編1977）

「〔海馬〕馬首魚身無レ鱗肉如レ豚ノ頗難シレ得得ル者ハ進ムレ王ニ」

意識：〔ジュゴン〕頭は馬で、体は魚であるが、鱗はない。肉は豚のようで、なかなか手に入らない。手に入ると、まず国王に進上する（原田1999）。

他に『元治元年 支那冊封使來諸記』下巻に「三段宮碗四 一 海馬 為心頭 小エヒ」とあり。

また、戸部良熙『大島筆記』の「諸産物大様」に「一 海馬 珍しき物也。丸さのまわり五尺計、長さ二間計、鱗なく大なる鰭もなし、頭は馬の如し、絲滿と云所にて取たるを、潮平子見たる由云えり。皮付の所を乾物にして國王え献ずる由也。薩摩にても殊外調寶する事也。爰許にて云海馬も有り、たつのをとしごと云、安産の咒にすると云へり、夫とは大に違へり」（下線筆者）（比嘉・新里解題1968）。

3) 新川 明、1987：人魚と島びとのロマン。『新南島風土記』。pp99～104。朝日新聞社。東京。

4) 三木 健、1987：無人の島に人が帰るとき。Coralway。10。pp31～32。南西航空。那覇。

5) 高良倉吉、1982：人魚と王様—知られざる沖縄の歴史・9—。青い海。12巻第3号(111号)。pp122～125。青い海出版社。那覇。

6) 高良1969によれば、ジュゴンの泣き声が赤ちゃんの鳴き声に似ていることからアカンガイユ（赤ん坊魚）と称されたという。

<参考文献>

江崎梯三、1935：八重山遊記—4—（ザンノ魚）。ドルメン。第4巻第4号。pp305～311。岡書店。東京。

恵原義盛、1973：十 ユリムン（寄り物）。『奄美生活誌』。pp302。木耳社。東京。

沖縄県立図書館・編、1977：徐葆光『中山傳信録』。下。巻6。（郷土史講座テキスト冊封使録集 十一）。pp230。沖縄県立図書館。那覇。

大山 柏、1944：第一編総合 第二章食料 第五節動物質食料 三哺乳類 十一特殊哺乳類 註 16 『基礎史前学』。pp359・363～364。弘文社。東京。

鹿野忠雄、1946：三〇 火烧島における先史學的豫察。『東南亜細亜民族學先史學研究』。第一巻。pp398～424。矢島書房。東京。pp418に「八、歯牙製品 恐らく儒艮幼獣の犬歯と思はれるもの（直良信夫氏の示教による）の基部に小孔を穿ち、身飾品として懸垂したと思はれるものが一個出土している」との記載がある。

金子浩昌、1984：海牛目 ジュゴン。考古学シリーズ* 『貝塚と獣骨の知識 人と動物のかかわり』。pp148～149。東京美術。東京。

———、2000：「蝶形骨器」の素材について。高宮廣衛先生古稀記念論文集刊行会編『琉球・東アジアの人と文化（上巻） 高宮廣衛先生古稀記念論文集』。pp47～54。同刊行会。

- 環境省, 2003:平成14年度 ジュゴンと藻場の広域的調査報告書. (財) 自然環境研究センター. 東京.
- 酒詰仲男, 1961:『日本縄文石器時代食料総説』. pp117. 土曜会. 京都.
- 高良鉄夫, 1969:六 海の珍獣・ジュゴン (人魚). 『琉球の自然と風物(特殊動物を探る)』. pp30~35. 琉球文教図書. 那覇.
- 西脇昌治, 1984:ジュゴンの話. 今西錦司・戸川幸夫・中西悟峯監修『全集 日本動物誌 30』. pp 5~52. 講談社. 東京.
- 原田禹雄, 1999:『徐葆光 中山傳信録 新訳注版』. pp.538. 榕樹書林. 宜野湾.
- 比嘉春潮・新里恵二解題, 1968:戸部良熙 大島筆記 上. 宮本常一・原口虎雄・比嘉春潮編『日本庶民生活史料集成 第一巻 探検・紀行・地誌 (南島篇)』. pp359~360. 三一書房. 東京.
- 宮城信之, 1980:8 - ジュゴンとクジラ. 木崎甲子郎編『琉球の自然史』. pp157~166. 築地書館. 東京.
- 盛本 勲, 1986:ジュゴンの調理および食法. 考古学ジャーナル. NO409. pp 2~5. ニューサイエンス社. 東京.
- , 2000:骨角製品からみた奄美・沖縄地域の交流史. 古代文化. 第52 巻 3 号. pp44 (172)~49(177). (財)古代学協会. 京都.
- 【集成(暫定)に関する発掘調査報告書等一覧】**
- 安里嗣淳・他, 1979a : 具志川島遺跡群-岩立地区埋葬遺構の調査- 第三次発掘調査報告書. 伊是名村文化財調査報告書 8 集. 伊是名村教育委員会. 沖縄県伊是名村.
- , 1979b: 伊江島ナガラ原西貝塚緊急発掘調査報告書-概報篇 自然遺物篇-, 伊江村文化財調査報告第 8 集. 伊江村教育委員会. 沖縄県伊江村.
- , 1979:伊是名貝塚緊急発掘調査報告書. 伊是名村文化財調査報告書第 4 集. 伊是名村教育委員会. 沖縄県伊是名村.
- ・他, 1981: 沖縄県玉城村百名第二貝塚の試掘調査. 沖縄県文化財調査報告書第38集. 沖縄県教育委員会. 那覇.
- ・他, 1983: 伊江島阿良貝塚発掘調査報告書. 沖縄県文化財調査報告書第48集. 沖縄県教育委員会. 那覇.
- ・他, 1984a: 勝連城跡-南貝塚および二の丸北地点の発掘調査-, 勝連町の文化財第 6 集. 勝連町教育委員会. 沖縄県勝連町.
- ・他, 1984b: 宮古島城辺町 長間底遺跡発掘調査報告. 沖縄文化財調査報告書第56集. 沖縄県教育委員会. 那覇.
- ・他, 1985a: 与那国島トゥグル浜遺跡-与那国空港整備工事に伴う緊急発掘調査報告. 沖縄県文化財調査報告書第66集. 沖縄県教育委員会. 那覇.
- ・他, 1985b: 伊江島具志原貝塚の概要. 沖縄県文化財調査報告書第61集. 沖縄県教育委員会. 那覇.
- ・他, 1986: 知花遺跡-沖縄自動車道(石川~那覇間)建設工事に伴う緊急発掘調査報告書-, 沖縄県文化財調査報告書第77集. 沖縄県教育委員会. 那覇.
- Shijun ASATO ,1990: THE URASOKO SITE A Sketch of the Excavation in Photographs.The Gusukube Town Board of Excavation.Okinawa, Japan.
- 後中筋正徳・岸本義彦, 1983: 山原貝塚発掘調査概要. 石垣市教育委員会. 石垣.
- 池畑耕一・他, 1984: あやまる第 2 貝塚. 笠利町文化財調査報告 NO.7. 笠利町教育委員会. 鹿児島県笠利町.
- 石堂徳一・当真嗣一・編, 1977: フルスト原遺跡. 石垣市文化財調査報告書第 1 集. 石垣市教育委員会. 石垣.
- 上原 静・他, 1983a, : 古宇利原遺跡発掘調査報告書. 今帰仁村文化財調査報告書第 8 集. 今帰仁村教育委員会. 沖縄県今帰仁村.
- ・他, 1983b, : 伊武部貝塚発掘調査報告書 国道58号拡幅工事に伴う緊急発掘調査-遺構・石器・貝製品・

- 貝殻編-, 沖縄県文化財調査報告書第51集, 沖縄県教育委員会, 那覇.
- ・他, 1992: 久良波貝塚, 沖縄県文化財調査報告書第108集, 沖縄県教育委員会, 那覇.
- ・他, 1993: 勝連町の遺跡-遺跡詳細分布調査報告書-, 勝連町の文化財第17集, 沖縄県勝連町.
- 江上幹幸・馬淵和雄・編, 2003: アラフ遺跡調査研究 I-沖縄県宮古島アラフ遺跡発掘調査報告書-, アラフ遺跡調査団.
- 大田宏好・他, 1983: ガジャンピラ丘陵遺跡-ガジャンピラ丘陵遺跡発掘調査報告書-, 那覇市文化財調査報告書第7集, 那覇市教育委員会, 那覇.
- 大城秀子・他, 1994: 下上原貝塚-個人住宅建設に係る緊急発掘調査-, 知念村文化財調査報告書第6集, 知念村教育委員会, 沖縄県知念村.
- 大城秀子・他, 2002: 熱田原貝塚発掘調査報告書, 知念村文化財調査報告書第10集, 知念村教育委員会, 沖縄県知念村.
- 大城 慧・金城亀信・島袋春美・編, 1984: カンドウ原遺跡-灌・排水工事に係る緊急発掘調査-, 沖縄県文化財調査報告書第58集, 沖縄県教育委員会, 那覇.
- 大城 慧・編, 1983a: 我謝遺跡-個人住建設に伴う緊急発掘調査-, 西原町文化財調査報告書第4集, 西原町教育委員会, 沖縄県西原町.
- ・編, 1983b: 我謝遺跡-分譲宅地造成に係る緊急発掘調査-, 西原町文化財調査報告書第5集, 西原町教育委員会, 沖縄県西原町.
- 大城 慧・大城 剛・他, 1986: 地荒原貝塚-個人住宅建設に係る発掘調査報告-, 具志川市教育委員会, 具志川.
- ・他, 1986: 地荒原遺跡-県道10号改良工事に伴う発掘調査報告-, 沖縄県文化財調査報告書第75集, 沖縄県教育委員会, 那覇.
- ・他, 1990: ぐすく グスク分布調査報告書(Ⅱ)-宮古諸島-, 沖縄県文化財調査報告書第94集, 沖縄県教育委員会, 那覇.
- ・他, 1994: 屋良グスク-屋良城跡公園整備計画に伴う範囲確認調査-, 嘉手納町文化財調査報告書第1集, 嘉手納町教育委員会, 沖縄県嘉手納町.
- 大山 柏, 1920: 『琉球伊波貝塚発掘報告』, 斎藤忠監修・解説, 1982: 復刻 日本考古学文献集成<2>, 第一書房, 東京.
- , 1944: 第一編総合 第二章食料 第五節動物質食料 三哺乳類 十一特殊哺乳類, 註16, 『基礎史前学』, pp359・363~364, 弘文社, 東京.
- 沖縄県伊是名貝塚学術調査団, 2002: 伊是名貝塚-沖縄県伊是名貝塚の調査と研究-, 勉誠社出版, 東京.
- 賀川光夫・多和田真淳, 1959: 沖縄県宜野湾市大山貝塚調査概要, 沖縄県教育委員会監修, 1978: 『沖縄文化財報告 1956~1962』, pp151~167, 那覇出版社, 那覇.
- 片桐千亜紀・他, 2003: 首里城跡-右掖門及び周辺地区発掘調査報告書-, 沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書第14集, 沖縄県立埋蔵文化財センター, 沖縄県西原町.
- 岸本義彦・編, 1979: 地荒原遺跡・苦増原遺跡, 具志川市文化財調査報告書第3集, 具志川市教育委員会, 具志川.
- ・他, 1981: 久里原貝塚範囲確認調査報告書, 伊平屋村文化財調査報告書第1集, 伊平屋村教育委員会, 沖縄県伊平屋村.
- ・他, 1982: 古座間味貝塚-範囲確認調査報告書-, 沖縄県文化財調査報告書第43集, 沖縄県教育委員会, 那覇.
- ・他, 1984: 野国-野国貝塚群B地点発掘調査報告-, 沖縄県文化財調査報告書第57集, 沖縄県教育委員会, 那覇.
- ・他, 1986: 具志堅貝塚発掘調査報告, 本部町文化財調査報告書第3集, 本部町教育委員会, 沖縄県本部町.

- ・他、1988：知場塚原遺跡-発掘調査報告-。本部町文化財調査報告書第5集。本部町教育委員会。沖縄県本部町。
- ・他、1989：宇佐浜遺跡発掘調査報告。沖縄県文化財調査報告書第93集。沖縄県教育委員会。那覇。
- ・他、1997：伊江島・具志原貝塚発掘調査報告。沖縄県文化財調査報告書第130集。沖縄県教育委員会。那覇。
- 岸本利枝・他、1996：部瀬名貝塚-ブセナリゾート開発に伴う緊急発掘調査報告書-。名護市教育委員会。名護。
- 金武正紀・他、1978：津堅島キガ浜貝塚発掘調査報告書。沖縄県文化財調査報告書第17集。沖縄県教育委員会。那覇。
- ・他、1980a：宇堅貝塚群。アカジャンガ-貝塚発掘調査報告。具志川市教育委員会。具志川。
- ・他、1980b：石垣島県道改良工事に伴う発掘調査報告 大田原遺跡 神田貝塚 ヤマバレー遺跡 附編 平地原遺跡表面採集遺物。沖縄県文化財調査報告書第30集。沖縄県教育委員会。那覇。
- ・他、1985：シヌグ堂遺跡-第1・2・3次発掘調査報告-。沖縄県文化財調査報告書第67集。沖縄県教育委員会。那覇。
- ・他、1997：銘苅原遺跡-那覇新都心土地区画整理事業に伴う緊急発掘調査報告Ⅳ-。那覇市文化財調査報告書第35集。那覇市教育委員会。那覇市。
- 金武正紀・宮里末廣・編、1983：今帰仁城跡発掘調査報告Ⅰ。今帰仁村文化財調査報告書第9集。今帰仁村教育委員会。沖縄県今帰仁村。
- 金武正紀・金城亀信・編、1986：下田原貝塚・大泊浜貝塚-第1・2・3次発掘調査報告-。沖縄県文化財調査報告書第74集。沖縄県教育委員会。那覇。
- 金城亀信・他、1989：宮城島遺跡分布調査報告 1.宮城島の遺跡 2.高嶺遺跡。沖縄県文化財調査報告書第92集。沖縄県教育委員会。那覇。
- ・他、1990：阿波根古島遺跡-那覇・糸満道路改良工事に伴う緊急発掘調査報告-。沖縄県文化財調査報告書第96集。沖縄県教育委員会。那覇。
- 金城亀信・編、1991：西表島船浦スラ所跡-港湾施設用地工事等に伴う発掘調査-。沖縄県文化財調査報告書第101集。沖縄県教育委員会。那覇。
- 湖城 清・他、1985：米須貝塚-範囲確認調査報告書-。糸満市文化財調査報告書第5集。糸満市教育委員会。糸満。
- ・他、1996：真栄里貝塚ほか発掘調査報告。糸満市文化財調査報告書第12集。糸満市教育委員会。糸満。
- 湖城 清・大城一成・編、2003：大度貝塚ほか発掘調査報告。糸満市文化財調査報告書第19集。糸満市教育委員会。糸満。
- 呉屋義勝・編、1984：喜友名遺跡群。宜野湾市文化財調査報告書第5集。宜野湾市教育委員会。宜野湾。
- ・他、1989：安座間原第1遺跡。日本考古学年報 1987年度。日本考古学協会。東京。
- ・編、1998a：伊佐前原第1・第二遺跡-キャンプ瑞慶覧基地内の陸軍貯油施設送油管整備工事に係る緊急発掘調査報告書-。宜野湾市文化財調査報告書第28集。宜野湾市教育委員会。宜野湾。
- ・編、1998b：都市計画街路大謝名・真志喜線建設工事関係埋蔵文化財発掘調査概要-真志喜富盛原第二遺跡・真志喜蔵当原遺跡-。宜野湾市文化財調査報告書第27集。宜野湾市教育委員会。宜野湾。
- 酒詰仲男、1961：『日本縄文石器時代食料総説』。pp117。土曜会。京都。
- 島田貞彦、1932：沖縄県崎樋川貝塚。歴史と地理。第30巻第5号。pp398～410。京都大学。京都。
- 島 弘・他、1986：備瀬貝塚-下水道工事に伴う緊急発掘調査報告-。本部町文化財調査報告書第4集。本部町教育委員会。沖縄県本部町。
- ・他、2001：首里崎山古墓群-首里崎山公園事業に伴う緊急発掘調査報告-。那覇市文化財調査報告書第47集。那覇市教育委員会。那覇。
- 島袋 洋・他、1985：名蔵貝塚群発掘調査報告書-県道改良工事に伴う緊急発掘調査-。沖縄県文化財調査報告書第64

- 集. 沖縄県教育委員会. 那覇.
- ・他, 1987: 石川市古我知原貝塚-沖縄自動車道(石川～那覇間)建設工事に伴う緊急発掘調査報告書(6)-, 沖縄県文化財調査報告書第84集. 沖縄県教育委員会. 那覇.
- ・他, 1992: 安仁屋トゥンヤマ遺跡-下級下仕官隊舎建設に伴う緊急発掘調査報告-, 沖縄県文化財調査報告書第105集. 沖縄県教育委員会. 那覇.
- ・編, 1993: 湧田古窯跡(Ⅰ)-県庁舎行政棟建設に係る発掘調査-, 沖縄県文化財調査報告書第111集. 沖縄県教育委員会. 那覇.
- ・編, 1995: 湧田古窯跡(Ⅱ)-県庁舎議会議会棟建設に係る発掘調査-, 沖縄県文化財調査報告書第121集. 沖縄県教育委員会. 那覇.
- ・他, 1996: 平敷屋トウバル遺跡-ホワイトビーチ地区内倉庫建設工事に伴う緊急発掘調査報告書-, 沖縄県文化財調査報告書第125集. 沖縄県教育委員会. 那覇.
- ・編, 1995: 嘉手納町の遺跡-詳細分布調査-, 嘉手納町文化財調査報告書第2集. 嘉手納町教育委員会. 沖縄県嘉手納町.
- ・編, 1999: 湧田古窯跡(Ⅳ)-県民広場地下駐車場建設に係る発掘調査-, 沖縄県文化財調査報告書第136集. 沖縄県教育委員会. 那覇.
- ・編, 2001: 天界寺跡(Ⅰ)-首里杜館地下駐車場入り口新設工事に伴う緊急調査-, 沖縄県立埋蔵文化財センター
- ・編, 2002: 天界寺跡(Ⅱ)-首里城公園管理棟新設工事に伴う緊急調査-, 沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書第8集. 沖縄県立埋蔵文化財センター. 沖縄県西原町.
- 島袋春美, 1991: いわゆる「蝶形骨製品」について, 南島考古, N011, pp 1～20. 沖縄考古学会. 那覇.
- 砂辺和正・編, 1992: 住屋遺跡-平良市新庁舎建設に伴う記録保存の為の緊急発掘調査概報-, 平良市文化財調査報告書第2集. 平良市教育委員会. 平良.
- ・編, 1999: 保里遺跡(旧県立厚生園跡地) 県営団地建設に伴う緊急発掘調査概報. 平良市文化財調査報告書第3集. 平良市教育委員会. 平良.
- 高宮廣衛・他, 1979a: 室川貝塚範囲確認調査報告書. 沖縄市文化財調査報告書第1集. 沖縄市教育委員会. 沖縄市.
- ・他, 1979b: 室川貝塚-第3～4次発掘調査概報-, 冲国大考古, 第3号. 沖縄国際大学文学部考古学研究室. 宜野湾.
- ・他, 1980: 室川貝塚-第2～4次発掘調査概報-, 冲国大考古, 第4号. 沖縄国際大学文学部考古学研究室. 宜野湾.
- ・他, 1981: 室川貝塚-第3～5次発掘調査概報-, 冲国大考古, 第5号. 沖縄国際大学文学部考古学研究室. 宜野湾.
- ・他, 1982: 室川貝塚-第4次発掘調査概報-, 冲国大考古, 第6号. 沖縄国際大学文学部考古学研究室. 宜野湾.
- ・他, 1985a: 沖永良部島神野貝塚発掘調査(その1)-Aトレンチ-, 冲国大考古, 第7号. 沖縄国際大学文学部考古学研究室. 宜野湾.
- ・他, 1985b: 沖永良部島神野貝塚発掘調査(その2)-Bトレンチ-, 冲国大考古, 第8号. 沖縄国際大学文学部考古学研究室. 宜野湾.
- ・他, 1987: 沖永良部島神野貝塚発掘調査(その3). 冲国大考古, 第9号. 沖縄国際大学考古学研究室. 宜野湾.
- ・他, 1999: 渡嘉敷村阿波連浦貝塚発掘調査報告. 冲国大考古, 第12号. 沖縄国際大学文学部考古学研究室.

宜野湾

- 嵩元政秀・他, 1980: 仲宗根貝塚-第一・第二次発掘調査報告概報-, 沖縄県文化財調査報告書第33集, 沖縄県教育委員会, 那覇.
- 立神次郎・編, 1986: 新奄美空港建設に伴う埋蔵文化財報告書 泉川遺跡, 鹿児島県埋蔵文化財調査報告書(39), 鹿児島県教育委員会, 鹿児島.
- 多和田真淳・他, 1962: 地荒原貝塚発掘報告, 沖縄県教育委員会監修, 1978: 『沖縄文化財調査報告1956~1962』, pp351~362, 那覇出版社, 那覇.
- 知名定順・編, 1999: 前原遺跡-県道漢那松田線道路整備工事に伴う発掘調査報告書-, 宜野座村文化財14集, 宜野座村教育委員会, 沖縄県宜野座村.
- 当真嗣一・他, 1980: 大原-久米島大原貝塚群発掘調査報告-, 沖縄県文化財調査報告書第32集, 沖縄県教育委員会, 那覇.
- ・編, 1983: 稲福遺跡発掘調査報告書(上御願地区), 沖縄県文化財調査報告書50集, 沖縄県教育委員会, 那覇.
- 当真嗣一・上原静・編, 1988: 首里城跡-歓会門・久慶門内側地域の復元整備事業にかかる遺構調査-, 沖縄県教育委員会, 那覇.
- 當銘清乃・編, 2001: 伊佐前原第一遺跡-宜野湾北中城線(伊佐~普天間)道路改築事業に伴う緊急発掘調査報告書(Ⅲ), 沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書第4集, 沖縄県立埋蔵文化財センター, 沖縄県西原町.
- 堂込秀人・編, 1990: 上城跡 上城遺跡-県営畑地帯総合土地改良事業(真正地区)に伴う埋蔵文化財確認調査報告書, 与論町埋蔵文化財発掘調査報告書(1), 与論町教育委員会, 鹿児島県与論町.
- 友寄英一郎・高宮廣衛, 1968: 伊江島具志原貝塚, 琉球大学法文学部紀要, 社会編, 第12号, pp37~76, 琉球大学法文学部, 那覇.
- 中村 愿・編, 1989: 伊礼原B遺跡-旧メイ・モスカラー地区雨水排水施設工事に係る発掘調査, 北谷町文化財調査報告書第8集, 北谷町教育委員会, 沖縄県北谷町.
- 仲宗根求・他, 1990: 沖縄県読谷村長浜 吹出原遺跡-個人住宅建築に伴う緊急発掘調査報告書-, 読谷村文化財調査報告書第9集, 読谷村教育委員会, 沖縄県読谷村.
- 長嶺均・大城慧・他, 1994: 恩納村久良波貝塚-県道6号線改良工事に係る緊急発掘調査報告書-, 沖縄県文化財調査報告書第116集, 沖縄県教育委員会, 那覇.
- 西銘 章・編, 2001: 首里城跡-下之御庭・用物座・瑞泉門・漏刻門・廣福門・木曳門跡発掘調査報告書-, 沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書第3集, 沖縄県立埋蔵文化財センター, 沖縄県西原町.
- ・編, 2001: ヤッチノガマ・カンジン原古墓群-県営かんがい排水事業(かんじん地区)に係る埋蔵文化財調査報告-, 沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書第6集, 沖縄県立埋蔵文化財センター, 沖縄県西原町.
- 西平 剛・他, 1991: 国指定史跡-糸数城跡-発掘調査報告書I-, 玉城村文化財調査報告書第1集, 玉城村教育委員会, 沖縄県玉城村.
- 新田重清・嵩元政秀, 1960: 嘉手納貝塚発掘調査報告書, 沖縄県教育委員会監修, 1978: 『沖縄文化財調査報告1956~1962』, pp184~207, 那覇出版社, 那覇.
- 新田重清・他, 1977: 渡喜仁浜原貝塚調査報告書〔1〕, 今帰仁村文化財報告書第1集, 今帰仁村教育委員会, 沖縄県今帰仁村.
- 羽方 誠・編, 2003: 尻並遺跡-那覇地方裁判所平良支部建て替えに伴う発掘調査-, 沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書第15集, 沖縄県立埋蔵文化財センター, 沖縄県西原町.
- 比嘉賀盛・他, 1997: 室川貝塚-沖縄市総合庁舎建設に伴う崖下地区記録保存発掘調査の報告書-, 沖縄市文化財調査報

- 告書第20集. 沖縄市教育委員会. 沖縄.
- 比嘉 聡・編, 1999: 喜友名貝塚・喜友名グスク-宜野湾北中城線(伊佐～普天間)道路改築事業に伴う緊急発掘調査報告書(Ⅰ)-, 沖縄県文化財調査報告書第134集. 沖縄県教育委員会. 那覇.
- 北條輝幸, 1976: 沖縄本島浦添貝塚出土のジュゴン(*Dugong dugon*)の上腕骨の同定と解剖学的ならびに人類学的考察. 人類学雑誌. vol84-NO.2. pp139～146. 日本人類学会. 東京.
- , 1991: 沖縄浦添貝塚発掘のジュゴンの上腕骨の意義. 『交流の考古学』三島格会長古稀記念号. pp234～240. 肥後考古学会. 熊本.
- 松川 章・他, 1985: 名護貝塚-県道116号線側溝改修工事に伴う緊急発掘調査報告書-, 沖縄県文化財調査報告書第63集. 沖縄県教育委員会. 那覇.
- ・他, 1990: 城間古墓群-牧港補給地区開発工事に伴う緊急発掘調査報告書-, 浦添市文化財調査報告書. 浦添市教育委員会. 浦添.
- ・編, 1991: 嘉門貝塚A-牧港補給基地開発工事に伴う緊急発掘調査報告書Ⅱ-, 浦添市文化財調査報告書第18集. 浦添市教育委員会. 浦添.
- ・編, 1992: 城間遺跡-牧港補給地区開発工事に伴う発掘調査報告書Ⅲ-, 浦添市文化財調査報告書第19集. 浦添市教育委員会. 浦添.
- ・編, 1993: 嘉門貝塚B-牧港補給基地開発工事に伴う緊急発掘調査報告書Ⅳ-, 浦添市文化財調査報告書第21集. 浦添市教育委員会. 浦添.
- 松村 瞭, 1919: 『琉球荻堂貝塚』. 斎藤忠監修・解説, 1983: 復刻 日本考古学文献集成<4>. 第一書房. 東京.
- 宮城利旭・他, 1988: 越來城-個人住宅建設に伴う記録保存調査及び範囲確認調査報告書-, 沖縄市文化財調査報告書第11集. 沖縄市教育委員会. 沖縄.
- 宮城ゆりか・砂辺和正・編, 2003: 尻川遺跡-個人住宅建設予定に伴う緊急発掘調査報告書-, 平良市文化財調査報告書第5集. 平良市教育委員会. 平良.
- 盛本 勲・編, 1986: 沖縄県宜野座村松田遺跡-一般国道329号改良工事に伴う緊急調査-, 沖縄県文化財調査報告書第76集. 沖縄県教育委員会. 那覇.
- ・編, 1989: 久米島具志川村清水貝塚発掘調査報告書. 具志川村文化財調査報告書第1集. 具志川村教育委員会. 沖縄県具志川村.
- ・他, 2001: 首里城跡-管理用道路地区発掘調査報告書-, 沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書第1集. 沖縄県立埋蔵文化財センター. 沖縄県西原町.
- 吉永正文・宮田栄二・編, 1984: 犬田布貝塚. 伊仙町埋蔵文化財発掘調査報告書(2). 伊仙町教育委員会. 鹿児島県伊仙町.
- 与那嶺豊・編, 1997: 渡嘉敷後原遺跡群-老人保健施設(とよみ健康長寿の杜)建設工事に伴う緊急発掘調査報告-, 豊見城村文化財調査報告書第5集. 豊見城村教育委員会. 沖縄県豊見城村.
- ・編, 2003: 宜保アガリヌ御獄-宜保土地区画整理事業埋蔵文化財調査業務-, 豊見城市文化財調査報告書第6集. 豊見城村教育委員会. 沖縄県豊見城村.
- 渡辺 誠, 1982: 動物遺体1・哺乳類. 『菜畑遺跡-佐賀県唐津市における初期稲作遺跡の調査-分析・考察編-』. pp309～419. 唐津市教育委員会. 唐津.